

4章 「振り返る」

4章は、保育を「振り返り」、今後の方向性を明らかにすることに焦点を当てています。保育の工夫により、子どもたちは探究を深めたり、興味を広げたりして夢中になって遊ぶことで、新たな目当てをもったり遊びが大きく展開したりします。保育者は保育を振り返り、子どもたちの変容を捉えて、成長・発達や、保育の方向性や見通しをもちます。

「振り返る」のプロセス

＜園内研修や保育レポートの参考に＞

- ① **子どもたちと遊びや活動を振り返り**、問題を相談したり今後の遊びをより面白くしたりするために、活動が切り替わる場面（ex: 片付けの前後）や、降園前に話し合う機会をつくる。
 - ↓
 - ② **保育者が自身の保育を振り返り**、子ども一人一人の理解や、明日の環境や援助の工夫のために、保育日誌やメモ、写真や動画などで保育を記録する。
 - ↓
 - ③ **子どもや保護者が園生活を振り返り**、遊びの流れや体験、子どもたちの取り組んでいる問題、変容や成長などの情報を共有できるように、子どもの姿を写真やコメントで紙面に表わした資料、掲示物や配布物を工夫する。
 - ↓
 - ④ **各保育者の記録や協議を通して年齢毎の保育や園全体の保育を振り返り**、新たな保育展開の見通しや課題をもち、環境の再構成や援助の工夫を共有する。
 - ↓
 - ⑤ **園全体で、保育の計画や指導計画に沿って子どもの体験や活動を振り返り**、過去の実践との比較から成果や課題を明らかにして保育の質の評価をしたり、今後の保育の方向性を明らかにしたりする。
- ◎ 「子どもをよく観る⇒支える⇒工夫する⇒振り返る」を重ね、保育の質の向上を図る。



※ 上記の実践の具体例（ご紹介している園は本事例集の掲載園です）

- ①： 愛の園ふちのべこども園では、園生活や遊びについて子どもが自分たちで話し合う「車座ミーティング」を行っています。（関連事例 P.4）
- ②④： 認定こども園杉の子では、写真とコメントで子どもの遊びや学びを示した大判用紙を会議室に掲示して話し合うなど、複雑なシフトでも遊びの情報を共有できるようにしています。
- ③： もいわ幼稚園の子どもは自分たちで保護者や地域の方に知らせたいことの掲示を作ったり発表会をしたりして人やものと意欲的に関わり感謝する心や思いやりの心が育まれています。
- ⑤： 京都教育大学附属幼稚園では、子どもも保育者も真摯に生き物に向き合う姿勢や体験を大切にしています。「子どもが“生き物と共に育つ”保育のため、命ある飼育動物を環境としてどのように考えて保育を工夫するか」を課題や方向性として実践しています。（関連事例 P.34）

実践 12：面白そう、やってみよう～3年間の育ちから～（保育記録から子どもの育ちを振り返る）（P.32）

本園は、子どもが夢中になった遊びに注目し、幼稚園教育要領に「一体的に育む資質・能力」として示された、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性など」の3つの観点で、体験を捉えています。

実践 12 では、**一人の子どもの3年間の体験を振り返ることで、興味の対象へ関わる姿や体験の特徴を明らかにすることができます。**子どもが、経験を活かして興味の対象に関わったり、思いをもって試行錯誤したり、自分なりの発想で挑戦したりする**3年間の記録から、子どもの体験の積み重ねや成長を捉えることができます。**



ベチャベチャしとるなー

実践 13：生き物大好き！（年齢毎の子どもの実態や育ちを振り返る）（P.34）

本園は、「**子どもが生き物との関わりを深めて親しみをもつ**」経験が重ねられる環境を工夫して実践を振り返り、**幼児期の発達を捉えています。**例えば、4歳児では、「好奇心をもって生き物を注視し、保育者や仲間との関わりを通して、新たな気づきや疑問などの科学的思考が芽生え、次第に生き物の特徴や生態に興味を深めて関わり方を考え、言動を変えるようになる」と捉えています。実践 13 では、「自分本位の関わりを繰り返す3歳児」「生き物の命や生態に気づき、生き物の立場に立って考え合ったり守ろうとしたりする5歳児」の事例を紹介しています。**生き物と関わる子どもの成長過程を重視し、「子どもが“生き物と共に育つ”保育のため、命ある飼育動物を環境としてどのように考えて保育を工夫するか」を課題として取り組んでいます。**



チャボの卵だよ

【その他の事例の「振り返る」】

子どもたちの興味や疑問、思いや葛藤など、子どもたちを理解し寄り添う保育をすることで、保育者も、子どもと同じ思いで夢中になったり、共同作業者として本気で子どもと取り組んだりしています。そのため、子どもたちとの振り返りは、保育者にとっても不十分であった情報を補う重要な保育の手がかりになります。また、子どもの発達や成長を捉えるためには、担任保育者だけではなく、園全体で保育を振り返ることが重要になります。次の2つの園は、園全体で振り返ることで、新たな保育の手がかりを獲得しています。

実践3：温泉に水を流そう（自身の保育を振り返る、園全体で保育を振り返る）

(P.10)

本園は、子どもたちのひらめきや発想の、「いい」に注目して、子どもの体験の理解を深め、保育の工夫をしています。『「いい」が誘発される要因』『「いい」を見つけた』『「いい」こと考えた』『きっと『いい』はず』『「いい」とはこれだ』など、「いい」をかたちづくる過程や分析の観点を明らかにして、保育の記録を事例にまとめています。

観点をもって振り返ることで、子どもの理解が深まり、保育者間での共通理解も深まっています。「水を流す」という遊びで、5歳児たちが互いの思いや葛藤を共有しながら求めていった「いい」の素晴らしさが伝わってきます。



流すから見といてな

実践7：お米作りから広がる子どもの世界（自身の保育を振り返る、園全体で保育を振り返る）

(P.18)

本園は、子どもが家からお米の苗をもってきたことをきっかけに稲作が始まりました。子どもも保育者も初めての体験のため、いろいろな情報を集めて進めます。その中の一つ、地域の博物館との交流では、古代米と出会い、石包丁、竪穴住居、古代衣装、火起こし、縄文土器、土偶、糠でのガーゼ染めなどと興味が広がり、多様な体験をしました。「古代」への興味から多様な活動が展開したことを振り返ってまとめることで、子どもたちが、自分の興味・関心や得意なこと好きなことを「入口」にして、米栽培に興味・関心をもつようになっていったことを捉えることにつながりました。



下の方を持って植えるんだよね

園内研修としての「振り返る」をご紹介！

日々の保育の中では、「子どもの思いに、どのように寄り添うのか」「子どもの言葉をどのように受け止めるのか」「保育の計画を優先するのか」など、迷ったり戸惑ったりする場面があります。保育者としての指導性を発揮することは容易なことではなく、「子どもを的確に理解しているか」「体験の深まりや広がり、子どもの成長に繋がる保育の工夫になっているか」「保育者主導ではなく、子ども主体の保育になっているか」などと悩んだり、保育の工夫に行き詰まったりすることがあります。そのような場合、保育者間で保育を振り返り、次の保育の工夫を図ることが大切です。

- ・ **記録のまとめの工夫** …… 振り返るための観点を共有し、記述の箇所にラインなど印をする。
焦点を当てた言動や体験、活動や遊びの記録を集める。
観点や課題に関する記録ができるように、記録用紙の項目や書式などを工夫する。
- ・ **共有の工夫** …… ポートフォリオやドキュメンテーションなど、子どもの姿を写真やコメントで紙面に表わし、保育者間、子どもと保育者や保護者で共有できるようにする。また、展示物や掲示物を子どもたち自身で追加したり入れ替えたりできるような展示や掲示コーナーを設け工夫する。
- ・ **課題や方向性の共有** …… 保育者一人一人が、保育の記録や考察したことを共有できるようにする。
会議や研究会などで取り上げ、保育を振り返って課題を明らかにする。
また、課題を踏まえて、今後の方向性の共通理解を図る。
- ・ **保育者間で支え合う** …… 日々の保育の中で、子どもや保育の話ができる時間と場を作る工夫（例えば、教材作り、環境作り、清掃など共同作業をしながら話す工夫）をする。